

**H. 両手の協調 H-1 タオルたたみ**

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

◆用意するもの:

- ①フェイスタオル

◆検者と被検者の位置:

被検者は机に向かって椅子に腰掛ける。検者は被検者と向かいあって座る。

◆検査手順

1) タオルを広げ、被検者正面の机の上に縦長に置いたのち、次のように言う。「これから両手の動きを調べます。まず、私がやってみますので見ていて下さい。」

2) 検者は次のデモンストレーション(下図)をしながら被検者に次の様に言う。

- ①「左右の手でタオル手前の両端を持って1/3のところまで折ります」。
- ②「今度は反対側を持って手前に重ねます」。
- ③「次はタオルの両端に両手を置き、それを90度時計回りに回転させます」。
- ④「手前の両端を持ち、さらに二つに折ります」。
- ⑤「これで出来上がりです。おわかりになりましたか」。

☆被検者が動作手順を理解していない場合には、再度デモンストレーションを繰り返す。

3) 被検者の前にあらためてタオルを置き、次のように言う。「いまと同じように両手でタオルを畳んでください。腕や肘は机の上に置かないでください」「はじめてください。」動作手順を忘れたら、そのつど口頭で指示する。

4) 検者は両手の動きを観察し、以下の基準にしたがって成績を評定する。

- : 完全にできる
- △: 不完全にできる
- ×: できない

5) 最も多く出現した記号を総合判定欄に記す。

◆観察所見:

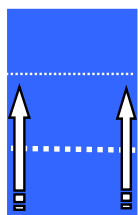
判定が△、×の場合にはその状態を観察所見欄や図を利用して記述する。

右手 本来の(利き手・非利き手)(健側・患側)(優位手・非優位手)\*

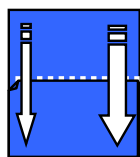
左手 本来の(利き手・非利き手)(健側・患側)(優位手・非優位手)\*

	判 定				総合判定	観察所見
	①	②	③	④		
両手を同じ高さに維持できる	(○、△、×)	(○、△、×)		(○、△、×)		
タオルを張った状態を保てる	(○、△、×)	(○、△、×)		(○、△、×)		
前後の距離を同じに保てる	(○、△、×)	(○、△、×)		(○、△、×)		
両手を同時に使って回転ができる			(○、△、×)			

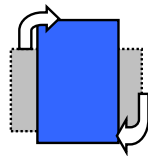
\* 優位手とは被検者がもっとも使いやすいと感じる方の手



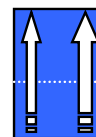
①



②



③



④



⑤

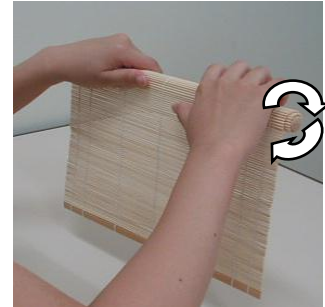
**H. 両手の協調 H-2 巻取り**

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

- ◆用意するもの:  
①「筆巻き」、②木製棒

◆検者と被検者の位置:  
被検者は椅子に腰掛ける。検者は被験者と向かい合って座る。

- ◆検査手順:  
1) 検者は図のように空中に筆巻きと棒を保持する。  
2) 両手を交互に動かして筆巻きを手前から外に向けて棒に巻き取る様子を示しながら、次のように言う。「両手を交互に動かして、これをこのように巻き取ってください」。  
3) 被検者に、外に向けて巻き取れるような向きに棒と筆巻きを渡し、空中で動作を行わせる。  
4) 巻き取る様子を観察する。



棒を水平に持ち、その手前に筆巻きを垂らし、筆巻きの上部を棒にかぶせる。さらにその上から両手をかぶせて持つ。

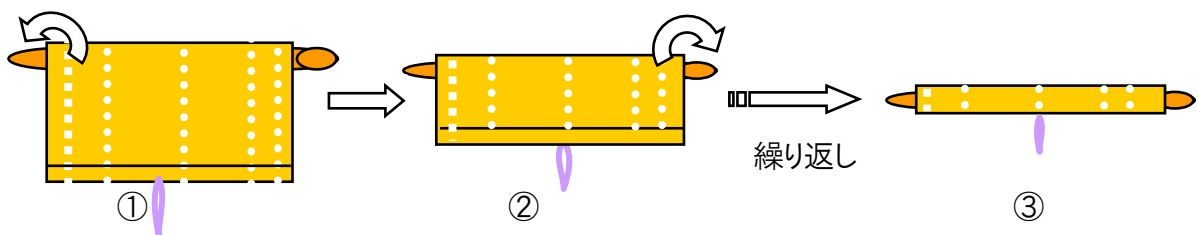
- ◆成績判定:  
検者は両手の動きを観察し、以下の基準にしたがって成績を評定する。  
○:完全にできる  
△:不完全にできる  
×:できない

◆観察所見:  
判定が△、×の場合にはその状態を観察所見欄や図を利用して記述する。

右手 本来の(利き手・非利き手)(健側・患側)(優位手・非優位手)\*  
左手 本来の(利き手・非利き手)(健側・患側)(優位手・非優位手)\*

	判定	観察所見
両手を交互に動かすことができる	(○、△、×)	
両手の動きに継続性がある	(○、△、×)	
両手の運動量が同じである	(○、△、×)	

\* 優位手とは被検者がもっとも使いやすいと感じる方の手



## H. 両手の協調 H-3 紐結び

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

**\*H-1,2が実施可能な者に対してのみ実行する。**

◆用意するもの:

①検査器具のツールボックスⅡ、②荷造り紐

◆検者と被検者の位置:

被検者は机に向かって椅子に腰掛ける。検者は被検者の横に位置する。

◆検査手順:

1) 被検者に見えるように机の上にツールボックスを置き、下図のように紐をかけ、ボックス前面の上縁で蝶結びにするのを見せながら、次のように言う。「これから、紐をこのように蝶結びに結んでもらいます」。

2) 被検者が理解したのを確認する。

※被検者が動作手順を理解していない場合には再度デモンストレーションを繰り返す。

3) あらためてツールボックスを図1のように机の上に置き、被検者に紐の両端を持たせ、次のように言う。「**同様に、紐を結んで、蝶結びにしてください**」

4) 被検者が紐を結ぶ様子を観察し、以下に従い成績を判定する。

○: 完全にできる

△: 不完全にできる

×: できない

◆観察所見:

判定が△、×の場合にはその状態を観察所見欄や図を利用して記述する。

右手 本来の(利き手・非利き手)(健側・患側)(優位手・非優位手)\*

左手 本来の(利き手・非利き手)(健側・患側)(優位手・非優位手)\*

	判定	観察所見
両手間で静的な動作と動的な動作を効果的に組み合わせることができる	(○、△、×)	
両手で紐の両端を引いて固い結び目を作ることができる	(○、△、×)	

\* 優位手とは被検者がもっとも使いやすいと感じる方の手

